

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 四日市農芸高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		普通教育と専門教育の充実に努め、専門技術者（スペシャリスト）を育成するとともに心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献する人材を育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○農業科目や家庭科目への興味関心を持ち、将来のスペシャリストとして、その進路実現のために専門的な知識・技能の習得をすすめている。 ○自ら進んで挨拶しコミュニケーションをとることで、公共心、規範意識、人間関係を築く力、自尊感情を高めている。
	ありたい 教職員像	○目指す学校像実現に向けて、様々な場面において情報共有と意思疎通を図る教職員 ○生徒の無限の可能性を信じ、生徒に寄り添いながら自らも成長しようとする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt; 専門的な知識や技術の習得、進路希望の実現、人格形成</p> <p>&lt;保護者&gt; 安全安心な学校生活の保障、規律ある生活習慣の確立</p> <p>&lt;地域住民&gt; 地域の活性化、学校施設の提供、地域防災の拠点</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>&lt;保護者&gt; 生徒が明るく生き生きと目標に向かって努力する。自己実現・進路実現、学校からの情報発信</p> <p>&lt;地域住民&gt; 交流の場としての協力、地域行事への協力、地域開放講座などの実施</p> <p>&lt;同窓会&gt; 歴史と伝統のある学校としての実績、地域社会に貢献する有能な人材育成</p> <p>&lt;大学等や産業界&gt; 有能な人材育成への期待</p>	<p>&lt;保護者&gt; 本校教育活動への理解と協力、特に家庭でのしつけについて</p> <p>&lt;地域住民&gt; 本校教育活動への理解と協力、特に生徒の活躍の場面の提供、地域資源の活用</p> <p>&lt;同窓会&gt; 本校教育活動への理解と支援、特にインターンシップ受け入れや進路開拓</p> <p>&lt;大学等や産業界&gt; 本校教育活動への理解と連携及び支援、特に進路実現や商品開発に向けた連携</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県の様々な事業の活用で、専門教育の充実に繋がっている。地域連携を学習活動の向上に活用していくことは、学校教育にとどまらず、地域の活性化という視点からも有効な手法である。今後も本校の特色を活かし、精選された地域連携を発展させていくべきである。</li> <li>・ 本校生徒の男女比バランスが偏ってきている。男子部活動の活性化や農場管理作業への影響があるのではないかと。今後、男子中学生に対して、魅力ある教育活動の展開や学校PRが必要である。</li> <li>・ 多くの同窓会員との連携が弱い。インターンシップや就職活動において積極的に連携していくべきである。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>目標を持って学習や部活動に前向きに努力する習慣が醸成されている。</p> <p>校内での合言葉である「挨拶は農芸の心」が学校文化として浸透し、何事にも真面目に素直に取り組もうとする豊かな心が育まれている。</p> <p>農業教育、家庭科教育をすすめる上で、更なる校内施設設備の充実が必要である。</p>	
	学校運営等	<p>地域や産業界との連携が年々充実する反面、地域からの要望過多により教職員の多忙化や困難化を招いている。</p> <p>業務の簡素化・効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する工夫が必要である。</p>	

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の充実と専門教科指導を強化し、生徒一人ひとりが持つ能力を引き出し、希望の進路実現につなげる。</li> <li>農業・家庭学科において将来のスペシャリストの育成と地域連携を通して、より実践的な学習活動を展開する。</li> <li>心の教育や部活動を通して、規範意識を醸成し、生徒の自主性や個性の伸長を図る。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談や特別支援教育充実のための体制作りをすすめる。</li> <li>学校の将来構想・展望の検討をすすめる。</li> <li>専門高校の特色を活かした進学に向けた指導体制を確立する。</li> <li>組織の業務内容の見直し、総勤務時間の縮減に取り組む。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年団および進路指導部・教科と連携し、基礎学力診断テスト、基礎学力テスト、進路模試を実施する。</li> <li>○できる限り自習時間を減らすよう授業変更の努力をする。</li> </ul> <p>【成果指標】生徒一人ひとりが納得のいくコース選択 100%を目指し、各学科・コースと連携して説明会を持つ。</p> <p>【成果指標】検定合格・資格取得者数のべ1200名を目指す。</p> <p>【成果指標】成績不振による原級留置者0を目指す。</p>	<p>各学年で予定通り実施</p> <p>昨年度より増加</p> <p>農業・家庭部において実施</p> <p>ほぼ達成</p> <p>達成</p>	◎
改善課題			
<p>本校の良さである成績不振者への粘り強い指導の継続。</p> <p>自習課題の事前準備。基礎学力診断テストの有効的な活用。</p>			

項目	取組内容・指標	結果	備考
進路指導の充実	<p>【活動指標】1学年は勤労観を育み自己理解を深めるため、進路講話を4回以上実施する。</p> <p>○2学年は、総合的な学習の時間を通して、自己の進路実現に向け自主的な行動ができる能力を養い、生徒が就職・進学の意味決定ができることを目指す。</p> <p>【成果指標】3学年は、進路決定に向けて学年と協力し、進路未決定者0を目指す。</p> <p>【活動指標】各学年とも進路希望調査を年2回行う。2・3学年は1回以上の個別面談を行う。</p> <p>【活動指標】進路指導広報誌「あすなる」を1年3回、2年6回、3年9回以上の発行を行う。</p> <p>【活動指標】3学年、学科と連携し、過去の実績をもとに150社以上の事業所訪問を目指す。</p> <p>○企業見学に積極的に取り組み、生徒が企業を理解し応募決定ができるよう努力する。</p> <p>○インターンシップを実施し、知識・マナーの必要性を自覚させ、学習意欲と適切な勤労観を養う。</p>	<p>1・2年生は計画通り実施。</p> <p>達成</p> <p>達成</p> <p>1年3回、2年4回、3年7回発行</p> <p>331社へ訪問</p> <p>応募前職場見学160社、320名の生徒が見学。</p> <p>2年生全員が実施。</p>	<p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p>

	<p>○各教科・コースと連携して「進学補習」と「受験課外」を計画的に実施する。</p> <p>【活動指標】学年・学科との連携を強化し、主に四大進学希望者へ早期指導と3年校外模試を3回実施する。</p> <p>【成果指標】国公立大・難関私大への進学合格者のべ10名をめざす。</p> <p>○各学年での進路希望状況の把握</p>	<p>3年と2年2学期から実施。</p> <p>実施したが課題も有</p> <p>達成</p>	<p>※</p>
--	---	---	----------

改善課題

2年生「総合的な学習の時間」における進路指導は生徒評価をもとにした見直しが必要。早期離職理由の「人間関係」対策として、コミュニケーション能力の向上が必要。進学対策として入学後の基礎学力定着指導が必要。

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>生徒指導の充実</p>	<p>○日常的な校内美化指導、環境教育</p> <p>○担任と生徒指導部の連携強化</p> <p>○問題行動の抑止</p> <p>○日常の挨拶の徹底、生活マナーの大切さの指導</p> <p>○部活動や学校行事への積極的な参加</p> <p>【活動指標】月例生活点検合格者90%以上、再点検合格者100%を目指す。</p> <p>【成果指標】全教員の100%が生徒に対しての声掛けが出来ていると感じることを目指す。</p> <p>【成果指標】全生徒・教職員の80%以上が挨拶は出来ていると感じることを目指す。</p> <p>【成果指標】全生徒・教職員の80%以上が状況に応じた言葉遣いができていると感じることを目指す。</p> <p>【成果指標】学校行事を良かったと感じる生徒が85%以上</p> <p>【活動指標】クラブ加入率70%以上を目指す。</p> <p>【成果指標】環境デー校外作業への参加生徒が全校生徒の70%以上を目指す。</p>	<p>計画的に実施できた</p> <p>連携できた</p> <p>件数少ないが、引き続き努力</p> <p>不十分</p> <p>学校行事が未達成</p> <p>月例90%合格→達成</p> <p>再点検合格99%→未達成</p> <p>「するようになった」、「以前から十分している」92%→未達成</p> <p>生徒88%→達成</p> <p>教職員47%→未達成</p> <p>生徒78%→未達成</p> <p>教職員59%→未達成</p> <p>83%→未達成</p> <p>83%→達成</p> <p>77%→達成</p>	<p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p>

改善課題

全教職員による挨拶指導が必要。また、「なぜ、○○が必要なのか」という点を挨拶に限らず、様々な場面において生徒に理解させるという視点も重要。職員会議等で共通理解を図り、日常の指導を充実させていく。

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>農業教育の充実</p>	<p>【成果指標】資格取得者総数を200名以上、将来の進路に向けた学習意欲の向上を図る。さらに職業教育顕彰、アグリマイスターの表彰者を、それぞれ5名以上を目標とする。</p> <p>【成果指標】農業クラブ競技会においては県大会で最優秀を4つ以上、東海大会では優秀賞を2つ以上、全国大会では優秀賞4つ以上を目標とする。</p> <p>○生徒の安全を第一とした実習・実験を行う。</p> <p>【成果指標】老朽化した施設設備改修の予算化を図り、学習環境</p>	<p>資格取得者総数354名</p> <p>アグリマイスター10名</p> <p>職業教育顕彰16名</p> <p>農業クラブ競技</p> <p>県大会最優秀2つ</p> <p>東海大会優秀1つ</p> <p>全国大会優秀4つ</p> <p>達成</p>	<p>◎</p>

	<p>の生徒満足度 90%以上を目標とする。</p> <p>○各種イベント、出前授業、地域開放的な取り組みを積極的に行い、地域に根ざした学校づくりを行う。</p>	達成	
--	---	----	--

**改善課題**

資格取得については意識の向上が見られ昨年度を上回る成績を得られた。このムードを更に高める工夫が必要。学習環境における生徒の満足度は高かったが、施設・設備の老朽化は、新技術による教育や安全な実習を行うことを難しくしている。

項目	取組内容・指標	結果	備考
家庭科教育の充実	<p>○専門的な技術を向上させ、各種コンクール・ショーに入賞できるよう指導する。</p> <p>【活動指標】教員が各種講座や研修会へ1回以上参加し、専門知識をより充実させ、授業に還元する。</p> <p>【成果指標】家庭クラブ員として生活文化科の生徒全員が積極的に活動を行い、家庭クラブ活動の充実度 90%以上を目指す。</p> <p>○進学に向けた専門知識の充実を図るために補習授業を行う。</p> <p>【成果指標】専門科目における資格取得をすすめ、さらに上級の資格取得に取り組む。また、資格取得者数延べ 800 名以上を目指す。</p> <p>【成果指標】地域連携の機会を増やし、なるべく多くの生徒が地域と関わりを持ち、参加生徒の満足度 90%以上を目指す。</p> <p>【成果指標】将来の進路希望を固めることのできた者 90%以上を目指す。</p> <p>【活動指標】社会マナーに関する個別指導の機会を一人につき、2年生に対して1回以上、3年生に対して2回以上、持つ。</p>	<p>各種コンクールで入賞できた。</p> <p>参加できた。</p> <p>家庭クラブ員充実度80% →未達成</p> <p>小論文指導・面接指導を行った。</p> <p>資格取得者 →延べ人数 866 人</p> <p>生徒満足度 →満足・ほぼ満足 99%</p> <p>進路希望達成者 →100%</p> <p>3年生全員 →2回</p> <p>2年生全員 →1回</p>	<p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p>

**改善課題**

今回家庭クラブ員としての家庭クラブ活動の充実度 90%以上が未達成となった。この背景には家庭クラブ員がどの活動が家庭クラブ活動なのかの認識ができていない点にある。今後、家庭クラブ活動の認識を明確にできるよう工夫する必要がある。

項目	取組内容・指標	結果	備考
人権教育の充実	<p>○生徒・教職員が様々な人権問題を正しく理解・認識するための取り組みを推進する。</p> <p>○校内人権教育推進委員会において人権教育推進計画を作成し、実施することにより人権教育を推進する。</p>	<p>性的マイリティの理解を重視し、達成</p> <p>達成</p>	

**改善課題**

人権尊重の意識を具体的かつ身近な事項として理解させる。

**(2) 学校運営等**

項目	取組内容・指標	結果	備考
開かれた学校づくりと組織運営の充実	<p>【成果指標】学校説明会・高校生活入門講座に参加した中学生、保護者の満足度85%以上を目指す。</p> <p>【成果指標】農芸祭について生徒、職員、PTA 役員の充実度80%以上を目指す。</p> <p>○保護者教職員の連携の核となる PTA 理事会を充実させ、行事等の改善を図る。</p> <p>○図書館運営の充実を図る。</p>	<p>学校説明会中学生 98%</p> <p>保護者 96%、入門講座 99%</p> <p>達成</p> <p>農芸祭生徒 98% 職員 85%</p> <p>達成</p> <p>PTA達成</p> <p>達成</p>	
改善課題			
学校説明会の校内案内について、歩く距離が比較的多いことを事前に連絡する。			

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報提供による信頼の定着	<p>○HPの効果的な運用方法を検討し、最新の情報を発信する。</p> <p>○電子掲示板を活用し、生徒・教職員・来校者へ情報の提供に努め、毎日運用する。</p> <p>○文書およびHP、絆ネットによりPTA行事や保護者公開の学校行事等の紹介に努め、教職員との共通理解・連携を進める。</p>	<p>達成</p> <p>達成</p> <p>達成</p>	
改善課題			
担当者の交代があっても更新頻度を維持できるようなシステムの構築			

項目	取組内容・指標	結果	備考
危機管理体制の充実と生徒・教職員の安全安心を守る取組	<p>○危機管理マニュアルにより、危機管理に関わる訓練を実施し、いざというときに備えられる組織運営を目指す。</p> <p>○生徒の各種検診の実施の徹底、生徒向け保健だよりの発行</p> <p>○AED 講習会、性教育講座、薬物乱用防止講座の実施</p>	<p>達成</p> <p>各種検診達成、便り学期ごと発行。各講習会実施。</p> <p>AED 講習会は 3 回実施。</p>	
改善課題			
職員対象 AED 講習は多くの参加（67 名／2 回）があったが、次年度も継続して実施していく。			

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育相談・特別支援教育の充実	○担任をはじめ各学年、各分掌との情報の共有を密にし、連携していく。必要に応じて、スクールカウンセラー・発達障がい支援員につなげ、支援体制を構築していく。	ほぼ達成	
改善課題			
担任、学年団、各分掌との情報共有を密に連携し、必要に応じ SC や発達障がい支援員につなげる。SC や発達障がい支援員と教職員の情報共有・共通理解を図る。（SC：スクールカウンセラー）			

項目	取組内容・指標	結果	備考
環境教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境マネジメントシステムにおける本年度の実施計画を策定し、全職員で共有する。</li> <li>○「環境教育で育てたい生徒の力」を共有し、日常の教育活動の中で環境教育を実践する。</li> <li>○6月に環境週間、10～11月に環境月間を設定し、期間中に、全教職員が各々の授業の中で環境教育を実践する。</li> <li>○全職員協力のもと、ISO14001再認証審査を受け、環境マネジメントシステムを維持する。</li> <li>○地域とのコミュニケーション活動の推進</li> </ul>	<p>達成</p> <p>環境実行計画に基づき実践できた。 実践率 100%</p> <p>新規格移行・認証の維持が承認された。 広く実施した。</p>	◎
<b>改善課題</b>			
全職員で環境教育への取組みを行うことができているが、次年度には、ISO 認証取得15年を向かえる。より一層、学校教育と一体となり、環境方針、環境目標に沿った、運用及び継続的改善に努める必要がある。			

項目	取組内容・指標	結果	備考
働きやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行事や取り組みの精選をすすめる。</li> <li>○総勤務時間の縮減に向けて、年次休暇を取得しやすい環境をつくる。</li> </ul>	インターンシップの継続について話し合う。本校の職員として働く満足度95%	
<b>改善課題</b>			
行事の精選を学年ごとではなく3年間を見据えた学校行事のあり方を検討していく必要がある。			

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	本校で学んだことが、卒業後にどのように活かされているのかを知り、これからの教育活動を充実させていく必要がある。今後、卒業後の進路を見据えたより高い専門教育の指導が必要である。
---------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	近年の中学卒業生の減少もあるが、本校への入学者選抜の志願者数が減少している。系、学科、コース体制の見直しによる新しい専門高校の魅力作りを検討する。 本校の伝統である何事にも一生懸命、素直に、真面目に取り組むという学校文化を教職員が一丸となって指導・継承していく必要がある。
学校運営についての改善策	特別支援教育、人権教育、生徒指導等の職員研修や組織の目的を共有する機会を持つことができた。次年度も新たな教育課題の研修は継続していく。 教職員の多忙化の解消、仕事の平準化、勤務時間の縮減を図ることができる工夫を検討していく必要がある。